

道徳通信

能美市立辰口中学校 平成28年 12月5日(月) NO. 9



12月の心のテーマ『思いやりの心』

2学期も残すところ、あと3週間となりました。ぜひ今学期の自分自身を振り返ってみてください。良かったところ、まだまだがんばれたところなど、人それぞれかと思えます。「終わりよければすべてよし」ということわざもありますが、辰中生全員がよい締めくくりを迎えられるように、残りの日々を無駄にすることなく、気を引き締めてがんばりましょう。

では、今学期最後の道徳通信です。前回に引き続き、「第50回全日本中学校道徳教育研究大会」の様子をご紹介します。



～3年生の授業の様子～

1・2組 『風に立つライオン』より

3年1・2組では、さだまささんの歌になっている「風に立つライオン」を資料として取り上げました。

3年1組では、「自分が主人公と同じ立場だったら、どうするか。」ということを考えて上で、主人公がアフリカの地で『幸せ』だと感じている理由について考えました。

3年2組では、資料を読んだ上で、「印象に残ったところ」を話し合い、タイトルにもなっている「風に向かって立つライオンでありたい」という言葉に込められた想いについて考えをめぐらせました。

(※同じ資料で違ったアプローチの仕方をしました。)



* 授業を終えての感想 *

私は、「僕」が自分の気持ちに正直に、辛さや苦しさを乗り越え、努力しているところがとても素敵だなと思いました。私も、自分の決めた道を信じて進んでいける人になりたいと思いました。

大学生を交えて話をし、手紙に込められた奥深さを見つけられたのでよかったです。海外で、それもアフリカで医師をすることだけでもすごいのに、自分はまだまだだ、と思って、もっと強くなりたいと思う意志が素敵だと思いました。

自分の強い思いを、夢や希望で終わらせることなく、それを実行に移したところがすごいなと思いました。自分は強い思いがあっても、「～したいな」ぐらいで済ませてしまうので、自分ももっと強くなりたいと思いました。

大学生との交流も！

3年2組の授業では今回特別に金沢工業大学の学生をお呼びし、グループ活動に司会役(ファシリテータ役)として参加していただきました。普段、自分達だけではなかなか話し合えないような突っ込んだ内容もいろいろ質問されることで、さらに資料について深く考えることができました。

3・4・5組 『ルビーロマン』 よい



3年3・4・5組では、石川県の特産品にもなっている「ルビーロマン」を取り上げた資料を扱いました。“宝石に一番近いぶどう”とも言われていますが、開発途中にはたくさんの人達の苦労や熱い想いがありました。



3年3組の授業の様子

本物のルビーロマンを見て、
大興奮！！

「ルビーロマン」って知ってる？

名前は聞いたことがあるけど、実物を見たことがある、食べたことがある、という生徒は意外に少ないことが判明！！

3年4組の授業の様子

3年4組の授業では、ゲストティーチャーとして石川県農林総合研究センターにお勤めの野畠重典氏にお越し頂き、開発に携わった際の苦労や喜びについてお話して頂きました。野畠氏にとって、ルビーロマン開発に必要なことは、「**社会貢献**」と「**飽くなき探究心**」だそうです。また、ルビーロマンを開発したあとも、梨（加賀しずく）やリンゴ（秋星）の開発、そして石川県の果物を多くの人に広める活動をされているということをお聞きしました。現状に満足することなく、新たな目標に向かって頑張られている姿に、たくさんの生徒が驚きと感動を覚えました。



* 授業を終えての感想 *

普通なら無理だと思ってやめてしまいそうなことを長い年月をかけてやりきれるところがすごいと思いました。だから何かをすぐにあきらめるのではなく、失敗しても何度も挑戦していくことが大切だと思います。

ルビーロマンの開発の背景には多くの苦労と努力があったことが分かりました。目標を決めたら、それに向けて1つ1つできることから取り組むということが大事だと思います。

新しいものを生み出すためには目標を高く持ち、人がやりたがらないことをやるということが大切だということが分かりました。本当にできるかも分からないものを作るのは本当に大変なことだと感じました。ルビーロマンを作った方たちはとても努力する方たちだと感じました。私も将来努力して、求められる人になりたいです。



昔とは違い、情報社会になっているこの日本で農業を続けられていることはとてもすごいことだと思った。誰にもできないことをやる。その教えにたどり着いた高松さんはすごい人だと思った。

3年5組の授業の様子

3年5組の授業では、ゲストティーチャーとして辰口校区にお住まいの吉川農園の吉川香里氏にお越し頂き、同じ農業に携わっているという観点からお話して頂きました。ルビーロマンの開発者と同じように、困難や失敗を乗り越え、目標に向かって挑戦し続けることの大切さを学ぶ良い時間となりました。

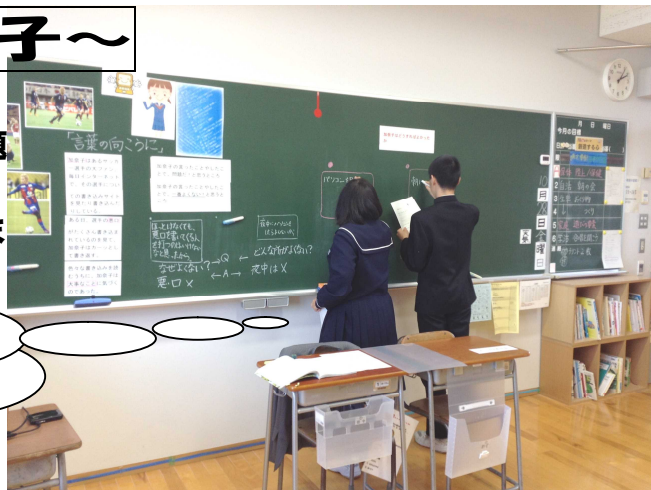
資料の主人公、そして吉川氏の2人の生き方を通して、自分自身を振り返り、困難を乗り越えて努力することの意義や価値を再確認することができました。



～赤松1組の授業の様子～

赤松1組では、「ことばの向こうに」という資料を扱いました。インターネットに関する身近な話題を取り上げ、主人公の行動から、「広い心で互いの違いを認める」ことの大切さについて考えを深めました。

自分の考えを、自分で黒板に書いて表現しています！これも「アクティブ」な活動の1つです！！



～2年生の授業の様子～

2年1・2組「栄冠は君に輝く」

1組では、授業の終末に、担任の麻田先生が、自らの甲子園での思い出を語る場面がありました。また、2組では、「栄冠は君に輝く」の歌詞を作った加賀大介さんの娘で

ある新川さんにお越しいただき、家族としての立場からお話をいただきました。どちらの授業でも、生きていく時に大切なことに気が付く時間となりました。



【あらすじ】

高校時代に甲子園で苦い経験をした主人公。大人になっても過去と向き合えずにいたのだが、ある日、全国高校野球大会で流れる『栄冠は君に輝く』にまつわる新聞記事を目にする。その記事をきっかけに、20年間一度も開けることの出来なかった段ボール箱を開け、当時に思いを馳せるのであった。自分を励ましてくれた審判員からもらったボールを握った瞬間、20年前の記憶が鮮明に蘇ると共に、新たな人生の目標を見つけることになる。

自分の生き方や個性について考える時間になりました。



・今は、嫌々やっていることでも、それが将来につながっていくのかもしれない。そう考えると、今、頑張らないといけないと思います。私も、心から好きといえるものを見付けられたらいいなと思います。

・続けることによって、自分自身の長所とかが増えていいと思った。そして、いろんなことに挑戦していけば、もっと長所を伸ばせると思うので、挑戦は大切だと思う。

・好きなことをやっているから、たまに嫌なこともあると

思うけど、プラスになることもあると思うから、嫌なことがあっても諦めずに取り組みたいと思った。

・出来る、出来ないの境界線を乗り越えたいと思いました。また、好きなことに熱中することで自分らしさが出来上がっていくし、人生が楽しくなると思います。これから私も、好きなものに出会えると思いますが、そのためなら何でもできる位、好きになりたいです。



2年3・4組「一冊のノート」

3組では、授業の終末に、家族から3組の生徒への気持ちが書かれた手紙を紹介しました。また、4組では、家族と生徒と一緒に写った写真を、サプライズで振り返る時間がありました。どちらの授業でも、家族のことを大切に、愛しく思う時間となりました。



【あらすじ】

中学生の「僕」と弟は、最近物忘れの激しくなったおばあちゃんに不満を持っていた。宿題をどこかに片付けてしまったり、異様な姿で外出したり…。僕が両親に相談すると、おばあちゃんの物忘れは、どんどん悪くなる可能性があることを知る。

なんとか理解しようと努めるも、友達からの伝言を忘れてしまったおばあちゃんに対して、僕は激しく罵ってしまう。

そんな、ある日のこと…。おばあちゃんの書いた、一冊のノートを見つけた僕。内容を見てみると、、、そこには、気が付かない間に物忘れをする自分を叱咤し、兄弟のお世話をこれからもしっかりと上げてほしいと願う、僕たち兄弟への惜しみない愛情に満ち溢れおばあちゃんの姿があった。

家族について、改めて考える時間になりました。



・今まで家族に対して不満しかなかったけれど、このお話を読んだ後は、家族に人に感謝することがたくさん生まれました。ご飯を作ってくれたり、自分の洗濯物を洗ってくれたり、日常で当たり前になっているけれど、幼い弟の世話をしたりして大変な中でやってくれていることなんだと改めて思いました。これからも家族に感謝したいです。

・いくら家族でも、言葉一つで相手が傷つくこともあるし、もっと自分の言動を考えようと思いました。私

は、いつも家族に迷惑をかけているので、これからは、家族の中で明るくて、元気を与えられる存在になりたいです。特に周りを見ることを心がけ、小さいことでも家族やみんなに気を配れるくらい余裕を持つことを大切にしようと思います。

・いつもイライラしたり、ムカついたり邪魔やなと思うことがあるけど、毎日小さなことでも話しかけてくれたり、愚痴とか聞いてくれたりしていたなあと気が付いた。いろいろと助けてもらっているから、いつか恩返しが出来たらいいと思う。

・私は家族に対して、大切に育ててくれたことに感謝したいと思いました。いつも、さりげなく、私のためを思っているいろんなことをしてくれたので、そのことを感謝の言葉で伝えたいと思いました。

・自分の親もたまに失敗することがあるけれど、そんな時は、失敗を責めるのではなく、何も言わずに見守った方がいいのかなと思った。いつも、いじっかしいと思っていたことも、僕のためにしていることだと思った。

・家族一人一人が頑張っているからこそ家族が成り立っているのです、誰かがミスをして、「次から頑張ればいい。」と言える家族の一員でありたいです。



たくさんのご理解・ご協力ありがとうございました！

